

備 前 市 施 策 評 価 シ ー ト

施 策 名 (小項目)	青少年教育	コード	作 成 者	役 職	生涯学習課長
		03-02-02		氏 名	末長章彦
			電 話	64-1841	
			このシート作成に要した時間	2.0 時間	

**この施策の
アピール
ポイント**
各地区の青少年育成組織率は100%。この育成会や学校PTAその他子どもたちと関わりの深い団体・個人が構成員となる備前市青少年健全育成推進本部は、民意により活動している。

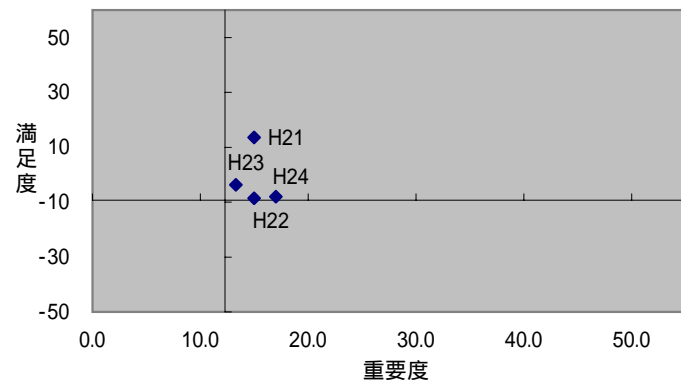
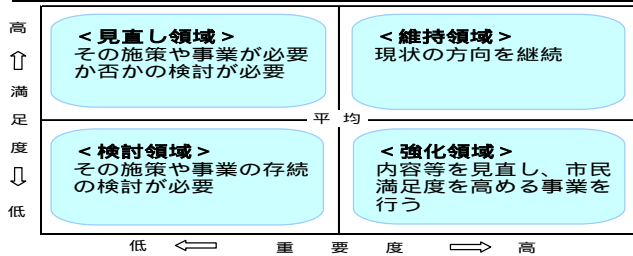
**この施策の
平成23年度の
施政方針**
「青少年育成センター」と「青少年健全育成推進本部」を中心に、家庭・学校・地域や関係団体との連携による青少年の健全育成を図り、少年非行の未然防止・早期発見・早期対応につながる効果的な活動や相談活動・啓発活動に取り組む。

< 備前市総合計画の内容から記載する >

政策の体系	基本目標(大項目)	地域文化とひとが輝くまちづくり
	基本施策(中項目)	生きがいのあるまちづくり
対象と目的 (誰のために、何のために)	修学前児童から高校卒業に達するまでの子どもたちとその保護者に、こどもたちが様々な被害にあわないため、また、非行・不良行為をおこさないため。	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	小学生から高校卒業の年齢に達するまでの子どもたちは、非常に多感で学業においても、人間関係構築においても大事な時期である。子どもたちの周りにはインターネットなど多くの情報が混沌としており、多くの危険要素が存在する。学校・家庭・地域社会が一体となって体験活動などの機会を充実するとともに、地域で子どもを育てる気運を醸成する。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育の充実 青少年健全育成活動の充実 青少年の主体的活動の促進 	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H21	H22	H23	H24
重要度(%)	15.0	15.0	13.3	17.0
満足度(%)	13.6	- 8.6	- 3.7	- 8.0



調査結果に対するコメント、市民の反応等
 地域的には備前地域で満足度が低く、他の地域では高い傾向にある。年代的には40・50代の満足度が低く、中・高校生年代の行動を危惧する傾向が見られる。
 [調査対象でない施策は、市民の反応等]

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単 位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H21	H22	H23			H24	H28
成果指標 健全育成を目的とする講演会・懇談会への参加者数	目標	人	1,000	1,000	1,000	育成講演会・育成大会・懇談会参加者	H24	1,000
	実績	人	868	866	882		H28	
	達成率	%	86.8	86.6	88.2		-	-
	ベンチマーク							
参考指標 青年・FOS団(会)員数	目標	人	170	170	170	青年協議会・FOS少年団の会員	H24	170
	実績	人	160	149	118		H28	
	達成率	%	94.1	87.6	69.4		-	-
	ベンチマーク							
参考指標	目標						H24	
	実績						H28	
	達成率	%					-	-
	ベンチマーク							
参考指標	目標						H24	
	実績						H28	
	達成率	%					-	-
	ベンチマーク							

目標達成に必要な新規事業(裏面 施策構成事務事業以外の事業)及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果

施策の評価

項 目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判 断 理 由 (なぜ、そのランクと評価したのか)	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	4	健全育成の取り組みは、こどもたちが非行や問題行動を起こさないようにするものから、基本的な生活態度の改善へと変化してきた。情報の氾濫や新たなメディアの普及により、課題も変化し、その対応も変容してくる。これらをこどもに関わるもの全てが理解する必要がある。	
2 <事業構成の適当性> 手段は最適か?	3	育成センターでは、こどもを害する環境から守る「白ポスト」活動や巡回見守りを続けている。健全育成推進本部事業では講演会や懇談会を通じて、今の子どもたちの考え方や直面する問題の情報を啓発している。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3	青少年健全育成事業は多くの大人を巻き込み、活動も活発で市内のこどもたちは概ね落ち着いている。一方、青少年活動支援事業は会員の凋落がみられ、集団で何かするより個々の活動を指向しており、人間関係を面倒がる風潮が見られる。	
進行年度(H24年度)の取組内容 (課題解決状況)		児童虐待やいじめ問題が大きく取り沙汰されているが、まずはどういう人間になるかという大きな視点に立ち、育成講演会では德育に重点をおいた改革者の話を聞き、懇談会ではコミュニケーション能力を育てることを保護者等に考えてもらう取組みを実施する。	
翌年度(H25年度)の取組目標		こどもたちは大人を見て育つ。こどもたちに関わる大人たちこそ人間性を磨く必要がある。	
二次評価者コメント		地域の高い意識もあり、通学見守りや挨拶運動は盛んに実施されている。こうした活動が今後も継続されるよう、現立役者の次の世代にも各種行事に参加してもらうよう努めてください。	基本施策への 貢献度 3 中立
役職 教育次長 氏名 岩崎 透			

